

組曲「都筑風土記」2

おおつか さいかち ど なつ
大塚・歳勝土の夏

加羅古呂庵 一泉

2020.5.25 作曲

自然が豊かで歴史のある横浜市都筑区の風景をテーマとして、「古民家の春」「大塚・歳勝土の夏」「月出松の秋」「山田富士の冬」「都筑の風」の5曲を作曲しました。いわば「都筑風土記」として、組曲のように5曲通して演奏してもいいですし、演奏する機会・場所に依じて、1～2曲ランダムに演奏してもいいでしょう。

大塚・歳勝土の夏

横浜市営地下鉄ブルーラインのセンター北駅から10分ほどのところに「大塚・歳勝土遺跡」があります。今からおよそ2,000年前の弥生時代中期の遺跡で、大塚ムラの遺跡と歳勝土の周溝墓の遺跡が隣り合っています。

弥生時代になると稲作が広がり、主に川沿いに水田が、台地の上に集落が作られたようです。人々が集まって農耕を行う中で、有力者が生まれ、周溝墓に葬られました。

ムラとムラの争いもあったようで、大塚ムラには環濠と柵がめぐらされ、竪穴式住居の半数に火災の跡があるといえます。

今は、竪穴式住居が復元され、周溝墓に隣接する広場では子どもたちの遊ぶ声が聞こえます。当時の暮らしがどのようなものであったかは想像もできませんが、森や竹林に囲まれた平和なムラを守ろうと戦った人々とその運命に思いを馳せてみました。

The musical score is written for five instruments: two flutes (尺八 I and II), two shamisen (箏 I and II), and a koto (十七絃). The key signature is one sharp (F#). The flute parts play a simple melody with a final note on a higher octave. The shamisen parts play a melody with lyrics: 一 三 五 七 九 斗 為 巾. The koto part plays a similar melody with lyrics: 一 三 五 七 九 1 3 5 7.

運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。